

F

まちづくりの方針

私たちは「みんなで支え合い、だれもが健康にいきいきと暮らせるまち」をめざします

F1

基本施策

人権が尊重され、様々な分野で男女が参画するまちをめざします

個別施策

- F1-1 人権啓発を推進します
- F1-2 人権侵害から市民を守ります
- F1-3 男女共同参画に関する意識の醸成を図ります

F2

基本施策

高齢者が安心して自分らしい暮らしを続けられる地域づくりを進めます

個別施策

- F2-1 地域包括ケアシステムの推進を図ります
- F2-2 高齢者の社会参加を促進します
- F2-3 地域の支援体制を構築します
- F2-4 介護サービスの充実を図ります

F3

基本施策

障害者が安心して自分らしく暮らせるまちづくりを進めます

個別施策

- F3-1 障害の特性やライフステージに応じた支援の充実を図ります
- F3-2 障害者の就労や生活の安定を支援します
- F3-3 障害者が安心して暮らせる環境づくりを進めます

F4

基本施策

子どもをみんなで育てる子育てしやすいまちづくりを進めます

個別施策

- F4-1 結婚や妊娠の希望の実現を支援します
- F4-2 母と子の健康を支援します
- F4-3 子育て支援の充実を図ります
- F4-4 子どもを育てやすい環境の充実を図ります
- F4-5 ひとり親家庭等の自立を支援します

基本計画で定めた各種施策を達成するための具体的な事業計画を示した「実施計画書」はこちら



F5

基本施策

原爆被爆者の援護を充実します

個別施策

- F5-1 被爆者が保健・医療・福祉サービスを受けやすい環境を整えます
- F5-2 被爆体験者の救済及び支援事業の充実を図ります
- F5-3 被爆実態に関する調査研究を促進します

F6

基本施策

生活困窮者等が将来への希望を持てる支援を充実します

個別施策

- F6-1 生活困窮者等が安定した生活ができるよう支援します
- F6-2 生活保護受給者の就労を支援します

F7

基本施策

自らすすめる健康づくりを推進します

個別施策

- F7-1 市民の自主的な健康づくり活動を支援します
- F7-2 健康づくり環境の充実を図ります
- F7-3 歯科口腔保健を推進します

F8

基本施策

安心できる衛生環境を確保します

個別施策

- F8-1 感染症の発生と感染拡大を防止します
- F8-2 飲食物、生活衛生等による健康被害発生を防止します

F9

基本施策

安心できる医療環境の充実を図ります

個別施策

- F9-1 救急医療体制の充実を図ります
- F9-2 地域医療提供体制の充実を図ります

人権が尊重され、様々な分野で男女が参画するまちをめざします

人権男女共同参画室

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対象	意図
市民が	互いの人権が尊重されたまちで暮らしている。

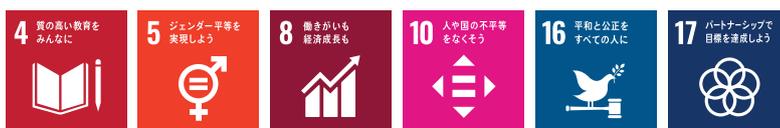
めざす姿を達成するための個別施策

- F1-1 人権啓発を推進します
- F1-2 人権侵害から市民を守ります
- F1-3 男女共同参画に関する意識の醸成を図ります

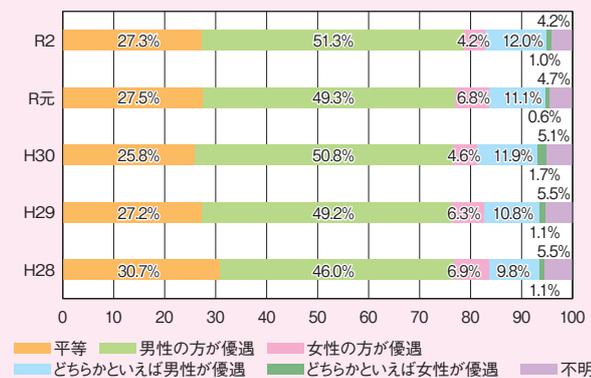
成果指標

成果指標	基準値	目標値
この1年間に人権に関していやな思いをしたり、不当な扱いを受けたことがない市民の割合	74.3% (H28～R2年度平均)	75.0% (R7年度)
社会全体で見ると男女平等であると感じている市民の割合	27.7% (H28～R2年度平均)	30.5% (R7年度)
市の審議会等への女性委員の登用率	23.9% (H28～R2年度平均)	40.0% (R7年度)

関連するSDGs

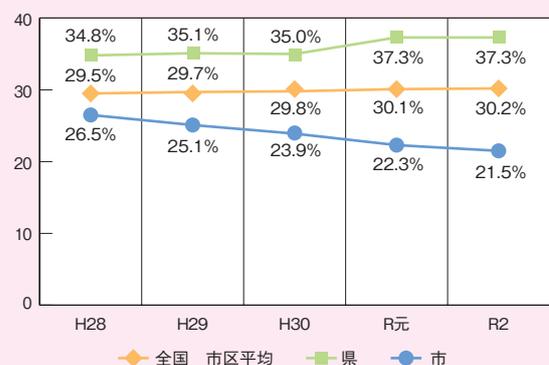


男女平等意識



資料：長崎市民意識調査

審議会等委員に占める女性の割合（各年4月1日現在）



資料：内閣府男女共同参画局

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	人権について正しい知識を得る機会がある。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
- 人権について問題意識や当事者意識を持ってもらう取組みとして、人権問題講演会等を実施し、一定数の参加がなされている。
 - 市民全体を対象とした啓発、地域の公民館などが実施する人権研修、こども・障害者・外国人など対象を絞った研修など、様々な人権啓発の場がある。
 - 性的少数者*に関する人権については、徐々にその認知度が進む中、パートナーシップ宣誓制度*の開始もあり、様々な啓発への取組みが進められている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
- 人権教育に関する講座について「人権」が難しいものと捉えられやすく、講演会などの参加者に固定化の傾向がある。
- 脅威**
- 新型コロナウイルス感染症拡大により、感染者等への差別やいじめが問題となるなど、新たな人権問題が生じている。
 - SNS*による誹謗中傷などで人権侵害が起こっているニュースなどが話題となり、全国的な社会問題となっている。



III 取組方針

①人権啓発の強化

- 新型コロナウイルス感染症拡大により起きた差別や、SNSでの誹謗中傷など人権侵害事例への関心が高まっていることを背景に、人権は誰もが持っている大切な権利であることの啓発をさらに強化します。

②性的少数者に関する人権啓発

- パートナーシップ宣誓制度の周知も含め、性の多様性への理解を深めるための啓発を行います。

③啓発手法の検討

- 講演会など参加型の啓発だけでなく、ホームページや、SNSなどを利用するなど、これまで人権に関する意識があまりなかった人にも届きやすい啓発手法を検討します。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市人権教育・啓発に関する基本計画
- 長崎市男女共同参画計画
- 長崎市男女共同参画推進条例
- 長崎市子ども・子育て支援事業計画
- 長崎市子どもを守る条例
- 長崎市障害者基本計画
- 長崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画



人権問題講演会

* 性的少数者

性的指向が異性愛のみではない者又は性自認が出生時の性と違和をもつ者。

* パートナーシップ宣誓制度

性的少数者のカップルが、その関係性を市長に対して宣誓した事実を証明することで、性の多様性に起因する生活上の支障を軽減し、性の多様性が尊重され、誰もが自分らしく生きられる社会を目指すことを目的とした制度。なお、宣誓者にはパートナーシップ宣誓書受領証を交付している。

* SNS (Social Networking Service)

(参照 P16)

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	人権侵害から守られている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 子どもや高齢者、障害者に対する被害を未然に防止するため、それぞれの関係機関の協議により必要な情報交換や意識の共有などが図られ、いじめや虐待などの早期発見、相談対応、地域関係者の連携強化につながっている。
- 主に女性に関する相談を受け付けるアマランス相談*は、年末年始を除き毎日相談を受けており、夜間電話相談日の設定や、必要に応じて法律相談や心の健康相談を行うなど、相談体制が充実している。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

脅威

- 児童虐待の相談対応件数は、全国と同様に増加しており、その背景には経済的困窮や核家族化による孤立、保護者の疾病や子どもの発達の特長など様々な要因が複雑かつ複合的に絡んでいる。
- 障害者に関する相談では、障害者の重度化・高齢化等に伴い相談内容が複雑化している。



III 取組方針

①被害を未然に防止するための取組み

- 被害を未然に防止するため、関係機関との連携強化を図り、子どもが安心して生活し学ぶことができる環境づくりや高齢者及び障害者の相談対応の強化に努めます。

②相談先の周知

- 相談先の周知方法を工夫し、安心して相談できる場所であることを市民に理解、認識してもらうための周知を図ります。

③相談体制の強化

- 多様化・複雑化する相談に対応できるよう、支援者（相談員）の資質向上の取組みや、他機関との連携により、相談体制を強化します。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市人権教育・啓発に関する基本計画
- 長崎市子ども・子育て支援事業計画
- 長崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- 長崎市男女共同参画計画
- 長崎市子どもを守る条例
- 長崎市障害者基本計画
- 長崎市男女共同参画推進条例

* アマランス相談

長崎市で行っている無料相談。女性相談員が、夫婦や家族、恋人のこと、人間関係、セクシャル・ハラスメント、DVなど、様々な悩みや相談を受けている。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	男女共同参画について理解を深め、その実現に向けて行動している。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 男女共同参画推進センター*主催講座の受講者が増加しており、多くの人に男女共同参画に関する学習の場を提供できている。
- 男女共同参画推進センター主催講座の受講者の満足度が高まっており、男女共同参画に関する意識の醸成が図られている。
- デートDV防止授業*（派遣講座）の実施校が増加しており、若年層からのDV*予防意識の醸成が図られている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- デートDV防止授業（派遣講座）の実施校は増えているものの、学校本来の授業時間に余裕がないなど、各学校の状況により実施できないところがあり、コロナ禍以前の直近3か年（平成29年度～令和元年度）において、授業の実施率は市立中学校41校中24校と6割程度の実施にとどまっている。



III 取組方針

①男女共同参画の推進に関する講座の実施

- 女性の人材育成、起業及びキャリア教育*等の女性の社会進出を推進する講座や、ワーク・ライフ・バランスの普及に関する講座など、男女共同参画の推進に関する講座を実施するとともに、多くの人に受講してもらえるよう、様々な媒体や関係団体へ働きかけを行うなど、積極的に周知を図ります。

②デートDV防止授業の実施

- 市内の公立中学校において、関係機関と協力して、若年層からのDV予防に関する啓発の重要性やその意義について、丁寧に説明しながらできるだけ多くの学校で実施できるよう呼びかけます。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市男女共同参画計画
- 長崎市男女共同参画推進条例



デートDV防止授業

* 男女共同参画推進センター

市民及び事業者による男女共同参画の推進に関する取組を支援し、男女共同参画に関する講座の開催や情報発信などを行う拠点施設（愛称：アマランス）。

* DV

ドメスティック・バイオレンスの略。夫婦、恋人等の男女間における身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為。

* デートDV防止授業

若年層からの深刻なDV被害や加害の予防啓発の取組みとして、主に市立中学校を対象に実施している男女共同参画推進センター主催の派遣講座。

キャリア教育

子どもたち一人ひとりの進路発達を支援し、望ましい勤労観や職業観を育み、主体的に自らの生き方や進路を選択決定できる能力や態度を育成する教育のこと。

F2 高齢者が安心して自分らしい暮らしを続けられる地域づくりを進めます

地域包括ケアシステム推進室

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対象	意図
高齢者が	地域の人々と支えあい、いきいきと安心して暮らしている。

めざす姿を達成するための個別施策

- F2-1 地域包括ケアシステム*の推進を図ります
- F2-2 高齢者の社会参加を促進します
- F2-3 地域の支援体制を構築します
- F2-4 介護サービスの充実を図ります

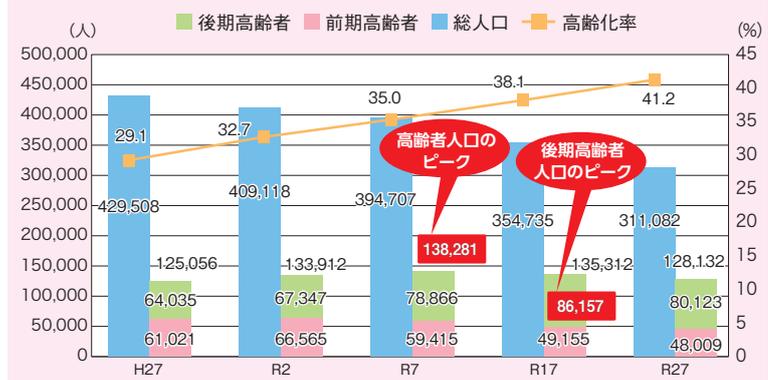
成果指標

成果指標	基準値	目標値
高齢者ふれあいサロン*実利用者数	2,054人 (R2年度)	2,520人 (R7年度)
医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと思う高齢者の割合	69.9% (R元年度)	89.0% (R7年度)

関連するSDGs



長崎市の人口と高齢化率の推移



資料：国勢調査、国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口」

* 地域包括ケアシステム (参照 P33)

* 高齢者ふれあいサロン

健康づくりや仲間づくりを目的に、地域の身近な場所で高齢者が気軽に集い、軽い体操やものづくりなどを通してふれあう通いの場。地域住民が主体となって週1回以上開催される。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
高齢者が	住み慣れた地域で、安心して自分らしい生活を続けている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
 - 地域包括ケアシステムの体制づくりは着実に進んでおり枠組みは整ってきている。
 - 地域コミュニティを支えるしくみ*づくりが進み、様々な団体の連携・協力のもと、地域の自主的な動きが広がっており、地域のつながりの土台ができてはじめています。
 - 多機関型地域包括支援センター*において、高齢・障害・児童・生活困窮等の複合的課題を抱える世帯に対して、ワンストップ*で対応し関係機関とのネットワークで課題解決に導く支援を行っている。
- 強み**
 - 訪問診療や介護事業所などの医療・介護の地域資源が他都市に比して豊富で、関係団体の取組みも活発で先進的である。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
 - ニーズ調査によると地域包括ケアシステムやACP*・看取り*に関する市民の理解が十分には進んでいない。
 - 高齢者の在宅生活を支えるための専門的視点を持った推進役を、R3年度から配置したばかりであり、まだコーディネートを担う機能が十分ではない。
- 脅威**
 - 超高齢社会において、後期高齢者や、ひとり暮らし高齢者、認知症高齢者の増加への対応が求められている。
 - 長崎県医療計画においては、後期高齢者人口がピークとなる2035（R17）年に向かって在宅医療需要の大幅な増加が見込まれている。
 - 地域共生社会*の実現に向けて、相談支援・参加支援・地域づくりを一体的に実施する更なる取組みが求められている。



III 取組方針

- ①長崎版地域包括ケアシステムの推進**
 - 住民、医療・介護の専門職・関係団体、行政との間で、地域の目指すべき姿、方向性、課題を共有しながら、地域包括ケアシステムの推進に向けて更なる取組みを展開していきます。
 - 超高齢社会への対応が必要となる中で、市民に対して地域包括ケアシステムへの理解促進、ACPや看取りに関する意識啓発を図ります。
- ②多職種連携による在宅医療と介護の連携推進**
 - 日常の療養支援、入退院支援、急変時の対応、看取り等の様々な場面において、医師をはじめとした多職種と連携しながら、切れ目のない在宅医療と介護の連携体制を推進します。
- ③地域の支え合いの仕組みづくり**
 - 住民主体の自主的な動きの醸成に併せ、地域の要請に応じて、介護予防・地域づくりの専門的視点でサポートしながら、高齢者の在宅生活を支えるための地域での支え合い活動を支援します。

* 地域包括ケアシステム（参照 P33）

* 地域コミュニティを支えるしくみ（参照 P37）

* 多機関型地域包括支援センター

これまでの制度・分野ごとの相談体制では対応困難な、いわゆる「8050問題」や「ダブルケア」という複合的な問題、制度の狭間にある人や世帯の支援にワンストップで対応する相談窓口。

* ワンストップ（参照 P38）

* 地域共生社会（参照 P38）

* ACP

アドバンス・ケア・プランニング。人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合う取り組み。愛称：人生会議。

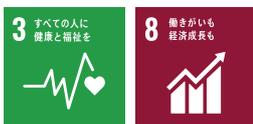
* 看取り

延命治療などの積極的な治療は行わず、高齢者が自然に亡くなるまでの過程を見守ること。

④地域共生社会の構築

- 地域の中で生活するすべての人が安心して暮らせるよう、高齢・障害・児童・生活困窮分野の相談支援機関をはじめ行政や民間機関が分野横断的に連携し、重層的な支援体制を構築していきます。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- 長崎市住生活基本計画
- みんなで、す〜で！ながさき虹色プロジェクト【長崎市地域まちづくり計画】



在宅医療を支える多くの専門職

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
高齢者が	自ら介護予防に努め、個人の能力を活かしながらいきいきと生活をしている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 高齢者ふれあいサロン*をはじめ、社協サロン*や自主グループなど、地域における通いの場が年々増えている。
- 介護予防活動を支援するボランティアの養成ができています。
- 中高年や高齢者が介護予防活動を支援するボランティア活動を行うことにより、元気なうちから介護予防の意識が醸成できています。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 退職や家族との死別など社会的つながりが薄れることなどから、介護予防活動や社会参加ができていない高齢者がいる。
- それぞれの地域の実情により通いの場の開設が難しいことから、身近な場所に通いの場がない地域がある。
- 中高年や高齢者において、地域活動やボランティア活動を行うことが介護予防につながるという意識を持っている人がまだ十分ではない。
- ボランティアの高齢化による入れ替わりなどに対応できるようなリーダー的存在となる担い手の確保が十分とはいえない。



III 取組方針

① 通いの場、老人クラブ活動への参加促進

- 高齢者ふれあいサロン等の通いの場の立ち上げや運営、老人クラブ活動への支援を行います。

② ボランティア活動の促進・支援

- 地域で活躍する中高年や高齢者を増やすため、介護予防活動を支援するボランティアの養成及び活動支援を行います。
- ボランティアや高齢者が通いの場の活動等を通じて、地域の中でのつながりづくりや生きがいづくりなど介護予防、生活の質の向上を図ることができるよう取り組みます。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- みんなで、す〜で!ながさき虹色プロジェクト【長崎市地域まちづくり計画】



高齢者ふれあいサロン

* 高齢者ふれあいサロン（参照 P155）

* 社協サロン

社会福祉法人長崎市社会福祉協議会が運営費の助成や立ち上げを支援する高齢者ふれあいサロン。

2025年度にめざす姿（なが、どうなっている）

対 象	意 図
地域の人々が	協働して高齢者を支えている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 認知症を正しく理解し、支援する人が増えていることで、認知症によるひとり歩き高齢者の支援体制や認知症カフェ*の開設・運営など、認知症のかたやその家族にやさしい地域づくりにつながっている。
- 認知症によるひとり歩き高齢者が行方不明になった際に、協力事業所として登録している介護事業所等へのメール配信による捜索協力のしくみを整えている。また、地域住民のアプリによる捜索協力のしくみを開始している。

強み

- 戸別訪問を行う事業者と協定を締結し、訪問した際に、高齢者の異変を把握した場合の連絡体制を整備している。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 地域の支援体制が十分には整っていない。

脅威

- 2035（令和17）年は後期高齢者人口がピークとなり、認知症高齢者数も増えることが見込まれる。
- 認知症によるひとり歩き高齢者の行方不明による保護や捜案件数は年々増えている。
- 今後も一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加が見込まれる。



III 取組方針

① 認知症サポートリーダー*登録者数の増進

- 認知症のかたやその家族が安心して住み慣れた地域で生活できるよう、認知症を正しく理解し寄り添い支援する認知症サポートリーダーを増やします。

② 地域による見守り体制の確保

- 地域住民や介護事業所等の見守りや行方不明時の捜索協力により、認知症によるひとり歩き高齢者の安全を確保します。
- 地域における高齢者の見守りを重層的に行うため、戸別訪問を行う複数の事業者との連絡体制を確保します。
- 権利擁護を必要とする高齢者を適切に支援できるよう、相談窓口の周知や、地域住民や事業所・医療・福祉等が連携し対応します。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- みんなで、す〜で！ながさき虹色プロジェクト【長崎市地域まちづくり計画】

* 認知症カフェ

認知症のことや物忘れが気になってきた本人、認知症の方を介護している家族、認知症について知りたい方など誰でも無料で参加できる集いの場。各地域包括支援センターが開催している。

* 認知症サポートリーダー

認知症高齢者やその家族を地域で温かく見守る応援者（認知症サポーター）から発展し、実際に地域で活動する・在宅生活を支える認知症地域支援の担い手。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
介護を必要とする高齢者が	住み慣れた地域で、必要なサービスを利用しながらいきいきとした生活を送っている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 特別養護老人ホームの入所待機者はいるものの介護サービスの受給率が高い。
- 地域密着型サービスの基盤整備については概ね順調に進んでいる。

強み

- 長崎県地域医療介護総合確保基金をもとに、県全体として介護人材確保に関する様々な事業が実施されており、さらに、県内を8つに分けた長崎圏域でも協議会が設立され、各団体とも連携しながら人材確保の事業に取り組んでいる。
- 全ての地域包括支援センターにおいて、介護者の居住地を限定せずに家族介護教室を開催することで、参加機会の拡大につながっている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 地域や家族との関係が希薄になっている状況において、介護者の心理的負担の軽減や孤立防止を図るための支援が必要となってきている。

脅威

- 高齢者数の増加とともに、介護ニーズが高い後期高齢者数も増加している。
- 介護職員は慢性的に人材不足が続いている。



III 取組方針

①介護・福祉サービスの基盤整備

- 高齢者に必要なサービスが十分提供されるよう、介護・福祉サービスの基盤整備を図ります。

②介護人材の確保

- 不足する介護人材を確保するため、将来の介護職への就職に係る意識の醸成、ボランティア養成など新たな介護人材の発掘、早期離職者の解消など介護人材の定着に努めます。

③介護者の不安軽減や孤立防止

- 在宅で安心して介護ができるよう、個別相談や家族介護教室の開催等を通じて介護者の不安の軽減や孤立防止を図り、必要な情報の提供や支援を行います。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

障害者が安心して自分らしく暮らせるまちづくりを進めます

障害福祉課

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対象	意図
障害者が	地域でいきいきとした日常生活、社会生活を送っている。

めざす姿を達成するための個別施策

F3-1 障害の特性やライフステージに応じた支援の充実を図ります

F3-2 障害者の就労や生活の安定を支援します

F3-3 障害者が安心して暮らせる環境づくりを進めます

成果指標

成果指標	基準値	目標値
日中活動系サービス*の実利用者数	4,542人 (R 2年度)	5,473人 (R 7年度)
就労移行支援事業所*等を通じて一般就労*した障害者数	77人 (R 2年度)	102人 (R 7年度)
居住系サービス（グループホーム）の実利用者数	579人 (R 2年度)	627人 (R 7年度)

関連するSDGs



障害福祉センター（もりまちハートセンター）

* 日中活動系サービス

日中における就労継続支援や生活介護等の通所系の障害福祉サービス等。

* 就労移行支援事業所

一般就労等を希望する65歳未満の障害者に対し、就労移行支援事業所における作業や、企業等における実習等、適性に合った職場探しや就労後の職場定着のために必要な訓練、指導等を行う事業所。

* 一般就労

一般企業等に就職し、労働の対価として賃金を受け取る形態。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
障害者が	必要な時期に適切な療育・サービスの提供を受けている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 障害福祉センター及び協力医療機関における診療数が増えており、障害の早期発見・早期療育につながっている。
- 保育所、幼稚園、認定こども園を対象に、専門スタッフによる巡回相談を実施し、障害の早期発見・早期療育につながっている。
- 各健康診査や経過健診の結果を受け、幼児を障害福祉センター等の専門医療機関に紹介することにより、障害の早期発見、早期療育につながっている。
- 市内5か所の委託相談支援事業所において、障害者からの相談に対する支援を行い、障害者の実情に応じた支援の充実につながっている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 障害福祉センター診療所（小児科）において、医師が不足しており、新規患者の相談から初診までの期間が長くなっている。
- 委託相談支援事業所の利用者数は増加しており、今後もニーズが見込まれることから、現状の体制では相談支援事業所の対応が難しくなってきている。



III 取組方針

①障害福祉サービスの質の向上と提供

- 障害福祉サービス等を提供する事業所の確保やサービスの質の向上を図り、障害福祉サービス等を円滑かつ適切に提供する取組みを推進します。

②診療所の受け入れ体制の充実

- 障害の早期発見、早期療育を図るため、障害福祉センター診療所における、診療、療育の充実に努めるとともに、医師を含めた受け入れ体制の充実を図るなど、診療・療育の待機期間を解消するための取組みを推進します。

③相談支援体制の充実

- 障害者ができるだけ身近な地域で、様々な困りごとなどを相談し、必要に応じて障害福祉サービスを円滑に利用できるよう支援を行うとともに、指定相談支援事業所や関係機関等に対する指導・助言や人材育成の支援等を行う相談支援の中核的役割を担う基幹相談支援センターの設置に向けた検討を行うなど、相談支援体制の充実を図ります。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市障害者基本計画
- 長崎市子ども・子育て支援事業計画
- 長崎市教育振興基本計画
- 長崎市障害福祉計画・障害児福祉計画
- 『健康長崎市民21』計画

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
障害者が	希望や能力に応じた就労をしている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 就労支援相談所*において、専門スタッフが障害者の就労支援に取り組み、障害者の社会参加の促進と、自立への取り組みが推進されている。
- 民間の事業所に雇用された障害者が、就労定着支援*のサービスを利用することで、就職先での就労継続が図られている。
- 障害者就労施設*等からの物品等の販売の円滑な推進を図るため共同受注窓口として「はあと屋*」を活用し、授産製品の販売促進につながっている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- はあと屋については、市役所をはじめ、協力企業等における移動販売の積極的な展開を行っているが、コロナ禍によりイベント等における売上額は減少している。
- コロナ禍において、就労継続支援事業所等の売り上げが減少し、障害者の工賃の維持が難しくなっている。



III 取組方針

① 障害者雇用の場の確保

- 障害者雇用に対する理解促進を図るとともに、障害者を雇用する事業主等の支援に努めるなど、障害者雇用の場を確保します。

② 福祉的就労*の充実・強化、一般就労*への移行促進

- 一般就労が困難な障害者の就労と収入増加を図るため、就労継続支援事業所等における福祉的就労の充実、強化に努めます。
- 福祉的就労から一般就労への移行を促進するために、就労移行支援*や就労定着支援のサービスの利用促進やサービス提供事業所の確保に努めます。

③ 授産製品の受注拡大

- 障害者の店「はあと屋」の運営を通じ、授産製品の売上げ拡大や障害者就労施設等からの物品等の優先調達を促進します。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市障害者基本計画
- 長崎市障害福祉計画・障害児福祉計画



はあと屋

* 就労支援相談所

障害福祉センター内に設置され、ハローワークなど関係機関と連携を図りながら、就労中又は就労を希望する障害者や障害者の雇用を希望している事業所等に対し、就労相談支援、雇用準備支援、又は必要な情報の提供等を行う相談所。

* はあと屋

障害者の社会参加及び授産製品の売り上げ向上を目的として、障害福祉サービス事業所等で作成した製品の販売を行うための店舗。

* 就労定着支援

就労移行支援等を利用して一般就労に移行した障害者で、就労に伴う環境変化により生活面の課題が生じている方の相談を受け、就職先や関係機関との調整等を行うこと。

* 福祉的就労

一般企業等で働くことが困難な障害者が、就労移行支援事業所や就労継続支援事業所等の障害福祉サービス事業所や地域活動支援センター等で労働に従事すること。

* 就労移行支援

一般就労等を希望する65歳未満の障害者に対し、就労移行支援事業所における作業や、企業等における実習等、適性に合った職場探しや就労後の職場定着のために必要な訓練、指導等を行うこと。

* 障害者就労施設

一般企業等で就労が困難な人に、働く場の提供や、就労に必要な知識や能力の向上のための訓練を行う施設。

* 一般就労（参照 P161）

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
障害者が	住まいを確保し、自立して生活している。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- グループホームについては、目標を上回るペースで定員数が増えており、地域で安心して暮らしていくことができる住まいの充実につながっている。
- 地域移行・地域定着支援事業*により、住まいの確保や、緊急時の連絡体制の確保など、地域で安心して暮らしていくことができる生活環境の充実につながっている。
- 保証人がいないなどの理由で賃貸住宅への入居が困難な障害者等に対し、入居に必要な調整等の住宅入居等支援を行っている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- グループホームについては、地域生活に適した事業用地の確保と施設整備に要する資金の調達、また、周辺住民の理解が課題となっている。
- 病院からの退院等の際に、地域移行支援の利用促進が図られず地域生活へ移行する人数が伸び悩んでいる。
- 成年後見制度について、周知が十分とは言えず、障害者へ広く浸透していない。
- 家主等の障害者に対する理解が進まず、入居につながらないことがある。



III 取組方針

① 障害者の住まいの確保、地域生活への移行と定着

- 障害者の住まいの確保については、国庫補助制度を活用し、地域における必要数を検討したうえでグループホームの整備を行うとともに、地域住民に対して障害及び障害者理解の促進に努めます。
- 障害者支援施設を退所又は精神科病院を退院し、地域生活へ移行したい方や一人暮らしをしたい障害者等が安心して地域で暮らすことができるよう医療機関等の関係機関と連携しながら地域移行、地域定着支援事業の利用促進に努めます。

② 成年後見制度の利用促進

- 障害者相談支援事業所など障害者の権利擁護に取組む他の機関と連携を図り、成年後見制度の周知や利用促進に努めます。

③ 地域生活支援拠点の整備

- 障害者の重度化、高齢化や「親亡き後*」を見据えた地域生活を支援する拠点の整備に向けて、自立支援協議会を中心に検討を進めていきます。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市障害者基本計画
- 長崎市障害福祉計画・障害児福祉計画
- 長崎市住生活基本計画
- 長崎市バリアフリーマスタープラン・長崎市バリアフリー基本構想
- 長崎市地域防災計画
- 長崎市安全・安心まちづくり行動計画
- 長崎市民権教育・啓発に関する基本計画

* 地域移行・地域定着支援事業

(地域移行支援事業) 地域移行のための相談支援として、障害者支援施設等の施設に入所している障害者又は精神科病院(精神科病院以外で精神病室が設けられている病院を含む)に入院している精神障害者について、住居の確保、その他の地域における生活

に移行するための活動に関する相談その他の便宜を供与する事業。

(地域定着支援事業) 居宅において単身、その他家族の状況等により同居している家族による支援を受けられない状況において生活する障害者について、当該障害者との常時の連絡体制を確保し、障害の特性

に起因して生じた緊急の事態において相談、緊急訪問、緊急対応等の便宜を供与する事業。

* 親亡き後

親を亡くした後の障害者の生活や財産管理等に関する様々な問題。

子どもをみんなで育てる子育てしやすいまちづくりを進めます

子育て支援課

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
子育て家庭が	まち全体に支えられ、安心して子育てができている。

めざす姿を達成するための個別施策

- F4-1 結婚や妊娠の希望の実現を支援します
- F4-2 母と子の健康を支援します
- F4-3 子育て支援の充実を図ります
- F4-4 子どもを育てやすい環境の充実を図ります
- F4-5 ひとり親家庭等の自立を支援します

成果指標

成果指標	基準値	目標値
子育てしやすいまちと思う割合	50.4% (R 2年度)	60.0% (R 7年度)
子ども（15歳未満）の人口 [暦年]	47,718人 (R 2年)	45,904人 (R 7年)

関連するSDGs



2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
結婚や妊娠を望む市民が	希望を実現している。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること** ●特定不妊治療費の助成を行うことで、不妊に悩む夫婦への経済的支援ができています。
- チャンス** ●長崎市における20代の未婚の方のうち、いずれ結婚したいと考える方は9割以上を占める。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと** ●20代の未婚の方では、いずれ結婚したいと考える方が9割以上を占める一方、全ての年代において未婚率は増加しており、その背景には結婚の希望はあるもののその実現に至っていない方々の存在があると考えられるため、希望の実現に向けて、結婚希望者の行動を喚起する必要があります。
- 不妊の原因や治療方法等、不妊に関する知識の啓発ができていない。
- 不妊に悩む夫婦が早期に治療に取り組めるよう、職場や家庭など周囲の理解を深める必要がある。



III 取組方針

- ①結婚に関する意識の啓発**
 - 結婚希望者の結婚に向けた行動を喚起するため、結婚希望者の意識啓発や社会として結婚を応援する機運の醸成を図ります。
- ②出会うの機会の創出**
 - 長崎県と連携しながら、結婚希望者の出会うの機会の創出を図ります。
- ③不妊に関する情報の提供**
 - 妊娠を望む夫婦が早い段階から不妊治療に取り組めるよう、不妊に関する知識の啓発を行います。
 - 不妊治療を受けやすい環境になるよう、不妊に関する情報の周知に取り組めます。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 長崎市子ども・子育て支援事業計画

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
母と子が	健康な生活を送っている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
 - 産科医療機関等との連携により、支援が必要な母子の早期発見・早期対応ができています。
 - 一部の地区において、地域の関係団体と意見交換を行うなど、地域で子育てを支える環境づくりに取り組んでいる。
 - むし歯予防習慣の定着を目的とした歯育て健診の受診割合が年々増加している。
- 強み**
 - 総合事務所に地区担当保健師が配置されており、身近な場所で母子の健康や育児に関する相談や保健指導が可能となっている。
 - 身近な場所で乳幼児健康診査を実施しており（市内7箇所）、子どもの健康の保持増進、育児相談の場となっている。
- チャンス**
 - 新庁舎2階に子育て関連機能が集約することで子育て家庭が利用しやすくなる。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
 - 専門職（保健師等）による母子健康手帳の交付及び相談事業を実施しているが、妊婦と連絡がつかないなど、保健指導ができない場合がある。
 - こども健康課と地区担当保健師を配置する総合事務所地域福祉課を「子育て世代包括支援センター*」と位置付けたが、周知が不十分で、子育て家庭にとって相談窓口がわかりにくい状況にある。
 - 近くに子育て支援センター*がなく、育児学級も開催されていないなど、相談できる場所が少ない地区がある。
 - 乳幼児健康診査の未受診者へ受診勧奨しているが、多忙等、保護者の都合により受診に至らない場合がある。
 - 妊産婦の口腔の健康を図る妊産婦歯科健診の受診率が低迷している。
- 脅威**
 - 核家族化や晩婚化、若年妊娠等によって、家族等の身近な人の助けが十分に得られず、不安や孤立感を抱きながら子育てを行う家庭が存在している。



III 取組方針

① 妊娠・出産・育児への切れ目ない支援

- 子育て世代包括支援センターについてわかりやすく周知するとともに、子育て家庭のニーズに応じた相談や支援体制の充実を図り、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を行います。
- まち全体で子育て家庭を支えるため、地域の団体や関係機関との連携強化及びネットワークづくりを推進します。

② 子どもの健やかな成長への支援

- 乳幼児健康診査において、未受診者対策を図りながら、乳幼児の発育・発達や疾病の早期発見を行うとともに保護者等に対して相談や指導を実施することで、子どもの健やかな成長を支援します。
- 妊娠期から歯の健康への関心を高め、むし歯予防の促進を図ります。

* 子育て世代包括支援センター

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援のために、保健師等を配置して相談・支援を行うもの。

* 子育て支援センター

民間団体が運営する、概ね3歳未満の乳幼児とその保護者に対する交流・相談・情報提供の場。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市子ども・子育て支援事業計画
- 長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略



保健師等による新生児訪問の様子



母子健康手帳交付時に提供する子育て情報

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
子育て家庭が	地域に支えられ、安心して子どもを育てている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
- 子どもに関わる機関との連携が進んでおり、行政による子育て支援施策だけでなく、地域や市民活動団体等との協働による子育て支援の取組みが始まっている。
 - 子育てに関する様々な情報発信を行っている子育て応援情報サイト「イーカオ」*のリニューアルや情報更新の頻度を上げたことなどにより、アクセス件数が増加している。
 - 子どもや子育てに関する総合相談窓口である「こども総合相談*」では、相談窓口の周知を行ったことなどにより、相談新規受付件数が増加するなど、子どもや保護者の不安感や負担感の軽減につながっている。
 - 子ども医療費の助成対象を中学校卒業まで拡大するなど、一定の経済的支援に取り組んでいる。
 - 子育て家庭が地域で気軽に交流・相談できる場である子育て支援センター*の利用者数が概ね増加傾向にあるなど、子育て中の保護者の子育ての負担感の軽減につながっている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
- 核家族化の進展や地域のつながりの希薄化などにより、身近な場所での支援や協力を受けることができにくい状況にあるため、子育ての孤立化が見られ、特にコロナ禍の影響によって子育ての不安や負担が高まっている。また、子ども同士の交流、異年齢や多世代間の交流の機会も減少している。
 - 長崎市が行っている様々な子育て支援施策の情報を届けたい相手にうまく伝えきれていないため、子育てしやすいまちと実感してもらえていない可能性がある。
 - 子どもの遊び場の整備に対する市民のニーズは高く、特に、天候に左右されない屋内の遊び場を求める声が高い。
- 脅威**
- 子育てに係る負担感の増加などにより、多くの対応が必要となるなど、相談機関に寄せられる相談内容が複雑かつ多様化している。
 - 国の調査において、約7人に1人の子どもが相対的貧困*の状態であることが示されるなど、子どもの貧困の問題が顕著化しており、さらにコロナ禍の影響による深刻化も懸念されるため、子どもやその家庭の実態やニーズを把握し、適切な支援につなげていく必要がある。



III 取組方針

① 地域や商店街、職場などで子育てを応援する取組みの推進

- 子育ての負担軽減を図るため、地域や商店街、職場など、どこにいても子育てを応援してもらえるような「場所の切れ目のない支援」を充実させ、まち全体で子育て家庭を応援する仕組みをつくりまします。

② 子育てに関する相談支援体制の充実

- 子どもや子育てに関する相談に適切かつ迅速に対応するため、研修や人事交流等により職員のスキルアップを図るとともに、関係機関と連携しながら相談支援体制の充実を図ります。

* 子育て応援情報サイト「イーカオ」
子どもや子育て家庭に関する情報を集めたホームページ。

* こども総合相談
長崎市の子どもや子育て全般に関する総合的な相談窓口。

* 子育て支援センター（参照 P167）

* 相対的貧困（参照 P34）

③子育てに関する情報の収集・発信の充実

- 子育て家庭が必要としている情報を正確にわかりやすく伝えるため、積極的な情報収集と効果的な情報発信に取り組みます。

④子どもの貧困対策の推進

- 貧困の状況にある子どもなどが適切な支援を受けられるよう、子どもやその家庭の生活実態を把握するとともに、子どもの貧困対策を総合的に推進します。

⑤経済的支援の実施

- 子育て家庭の経済的負担軽減を図るため、児童手当の支給や子どもの医療費の助成など、既存の経済的支援を実施します。

⑥子育てを通じた仲間づくりの推進

- 子育て家庭が集える場を提供するため、子育て家庭が地域で気軽に交流・相談できる場の利用促進を図ります。

⑦子どもが遊び、学ぶ場の充実

- 子どもたちが豊かな自然環境の中で思いっきり遊びながら成長できる全天候型子ども遊戯施設を「あぐりの丘」に整備することで、子育てしやすい環境の充実強化を図ります。

⑧子育てを総合的に支援するための拠点の整備

- 子どもや子育て家庭を総合的に支援する拠点となる「こどもセンター*」の整備を進めます。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市子ども・子育て支援事業計画
- 長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 子どもの貧困対策推進計画



子育て応援サイト イーカオ



子育て支援センター

* こどもセンター

子ども自身の育ちと、子どもをはぐむ親の育ちを支援するための施設。

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
子育て家庭が	充実した保育サービスを受けている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 令和3年4月1日時点での保育所等の待機児童0人を達成しており、一定保育の量の確保はできている。
- 子どもが安心して生活できる放課後児童クラブ*の運営が行われ、保護者が安心して就労できる環境づくりができています。
- 放課後児童クラブの狭あい化の解消等、充実した環境整備が図られている。
- 放課後子ども教室*を実施する小学校区を拡充することで、児童が放課後等に色々な体験をし、安全・安心に過ごせる活動場所が確保できている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 市域全体として保育の量の確保はできているものの、区域によっては不足する保育サービスがある。
- 研修支援などにより、保育の質の向上を図ってきたが、今後さらなる保育の質の向上が求められている。
- 放課後子ども教室の実施については、取りまとめ役（コーディネーター）となる人材の発掘が難しい。



III 取組方針

①保育の量の確保・サービスの充実

- 子育て家庭が自分の生活形態に合ったサービスを選択できるように、適切な保育の量を確保するとともに、多様な保育サービスの充実を図ります。

②保育の質の向上

- 保育士、幼稚園教諭等の研修支援や処遇改善等を行うとともに、働きやすい職場環境の整備を推進するなど、関係機関と連携しながら、保育の質の向上を図ります。

③児童の安全・安心な居場所の確保

- 放課後児童クラブに対する研修支援や処遇改善等により更なる質の向上を図ります。
- 経済的負担が理由で放課後児童クラブを利用できなくなることがないように、就学援助受給世帯やひとり親家庭等への利用料の減免措置を実施します。
- 放課後子ども教室について、コーディネーター等の人材育成やプログラムの更なる質の向上を図るため研修会を実施します。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市子ども・子育て支援事業計画



放課後子ども教室

* 放課後児童クラブ（参照 P33）

* 放課後子ども教室

放課後等に校区に居住するすべての児童が安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができる場（開設日は各教室ごとに異なる。）。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
ひとり親家庭等が	自立した生活を送っている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること ● 就労に向けた資格取得支援を受けた対象者が資格を取得し就業に繋がっている。

チャンス ● ひとり親家庭等の自立に向けた様々な公的支援制度がある。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと ● 公的支援制度について、制度の存在が認識されていないなど、支援が必要な一部の世帯に情報が行き届いていない。

弱み ● 相談窓口が限られており、対応時間も限定されている。
● 支援が必要な世帯は様々な悩みを抱えており、関係機関との連携を強化するとともに相談スキルの向上を図る必要がある。



III 取組方針

① 生活の支援

● ひとり親家庭等が個々の状況に応じた支援が受けられるよう、関係機関との連携を強化し、生活支援や養育費確保にむけた取組みを行います。

② 経済的支援

● ひとり親家庭等の経済的自立の促進及び児童福祉の増進のため、各種手当や助成及び貸付など経済的支援を引き続き実施します。

③ 就業の支援

● ひとり親家庭等にとってより良い雇用条件で就業し、自立した生活を送ることができるよう、ハローワーク等と連携し、就業支援を推進します。

④ 情報提供の充実及び相談機能の強化

● 必要な人に必要な情報が届けられるよう、支援施策の情報提供を充実します。
● ひとり親家庭等に寄り添った、きめ細やかな対応が行えるように、相談機能を強化します。

関連するSDGs



関連する計画等

● 長崎市子ども・子育て支援事業計画

F5 原爆被爆者の援護を充実します

援護課

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対象	意図
被爆者等が	安心して暮らしている。

めざす姿を達成するための個別施策

- F5-1 被爆者が保健・医療・福祉サービスを受けやすい環境を整えます
- F5-2 被爆体験者の救済及び支援事業の充実を図ります
- F5-3 被爆実態に関する調査研究を促進します

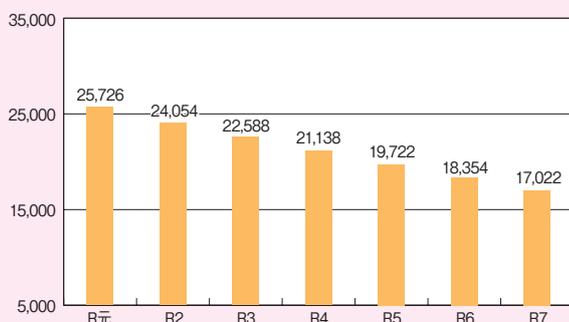
成果指標

成果指標	基準値	目標値
被爆者等に関する国への要望事項の実現数 [累計]	—	9項目 (R7年度)

関連するSDGs



被爆者健康手帳交付者数の推移(令和3年度以降は推計)



資料：長崎原爆被爆者の人口の動向（1970－2006年）

被爆者の平均年齢の推移(令和3年度以降は推計)



資料：長崎原爆被爆者の人口の動向（1970－2006年）

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
被爆者が	安心して保健・医療・福祉サービスを受けている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 現行の援護施策については、安定的に提供できている。
- 在外被爆者*の援護については、平成28年1月から医療費支給制度が、平成31年4月からブラジルにて一部医療機関の医療費代行申請がそれぞれ開始し、大幅な改善が図られている。

チャンス

- 被爆者に対する介護サービスの助成は、介護保険制度以前からのサービスに限られ、新たな介護サービスへの適用といった拡充が困難とされてきたが、令和3年度からグループホームの利用が認められている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 介護サービスの全額国費負担が認められておらず、対象サービスの拡充と比例し本市の負担が膨らんでいる。
- 在外公館等*を通じた手帳交付の代理申請は、本人確認が自治体に委ねられており、交付に時間を要する一因となっている。



III 取組方針

① 援護施策の安定的提供

- 高齢化する被爆者等へ安定的に援護施策を提供できるよう、より細やかな対応に努めます。

② 国への要望

- 援護施策の充実に関する国への要望については、被爆者団体、長崎県、広島県市等とも連携し、一体的に進めていきます。

関連するSDGs



長崎市原子爆弾被爆者健康管理センターでの健康診断の様子

* 在外被爆者

日本国内に居住地及び現在地を有しない者であって、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に基づく被爆者健康手帳の交付を受けている者又は交付を受けようとする者。

* 在外公館等

他国内に設置されている日本国政府の大使館または領事館（台湾においては公益財団法人 日本台湾交流協会）

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
被爆体験者が	安心して支援を受けている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
 - 国に対して被爆体験者支援事業*の充実を要望したところ、平成28年度から令和元年度まで毎年対象合併症が追加された。
- チャンス**
 - 広島黒い雨訴訟*の判決を受け、黒い雨に遭い、特定の疾病にかかっている者を被爆者として認めることとなった。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
 - 対象合併症、特にがんの追加が認められていない。
 - 長崎は黒い雨に伴う被爆者認定の対象となっていない。



III 取組方針

① 国への要望

- 被爆未指定地域の再検討を国に対して求めます。
- 被爆体験者の救済及び被爆体験者支援事業の充実を国に対して求めます。

関連するSDGs



長崎市原子爆弾被爆者援護強化対策協議会（原援協）による要望（オンライン）

* 被爆体験者支援事業

被爆体験による精神的要因に基づく特定の精神疾患を有する者に対し、当該精神疾患及びその合併症の治療等に係る医療費を支給すること等により、治癒等を図ることを目的に実施している事業。

* 黒い雨訴訟

広島への原爆投下後に降った雨（いわゆる「黒い雨」）により放射線に被曝し健康影響を受けたとして、広島県内に居住する原告84名が被爆者健康手帳の交付を求めた訴訟で、国は上告を見送り原告全員の勝訴が確定した。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
原爆被爆の実態が	調査により把握されている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
 - 原爆被爆による人的被害の実態及び被爆者世帯の被爆状況等を明らかにするための原爆被爆者動態調査において、着実に死没者データの整備が進んでいる。
- チャンス**
 - 被爆二世*の健康管理のための「被爆二世健康記録簿」の作成・配布に係る国の委託料による措置が制度化された。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
 - 原爆放射線の身体的・遺伝的影響について、新たな科学的知見を得るには至っていない。



III 取組方針

① 調査研究の継続実施

- 原爆被爆者動態調査を実施します。
- 被爆地域の拡大是正などの原爆被爆者援護行政の施策の推進につなげるため長崎市原子爆弾放射線影響研究会*を開催します。

② 国への要望

- 被爆二世健康診断内容の充実を国へ要望します。

関連するSDGs



長崎市原子爆弾放射線影響研究会

* 被爆二世

両親又はそのどちらかが原爆被爆者で、長崎被爆は昭和21年6月4日以降に、広島被爆は昭和21年6月1日以降に生まれた者。

* 長崎市原子爆弾放射線影響研究会

原子爆弾の放射線による人体への影響に関する研究事項について、原爆被爆者援護行政の参考とするための情報及び意見を収集する長崎市附属機関。

生活困窮者等が将来への希望を持てる 支援を充実します

生活福祉 2 課

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
生活困窮者や生活保護受給者が	夢や生きがいをもって心身ともに健やかに暮らすことができる。

めざす姿を達成するための個別施策

F6-1 生活困窮者等が安定した生活ができるよう支援します

F6-2 生活保護受給者の就労を支援します

成果指標

成果指標	基準値	目標値
生活保護面接相談及び生活支援相談センター*で何らかの解決を得た人の割合	93.8% (R2年度)	98.6% (R7年度)
生活保護受給者で就労可能な者（病気や障害等により就労への課題を抱えた者を含む）のうち就労している者の割合	63.4% (R元年度)	63.4% (R7年度)

関連するSDGs

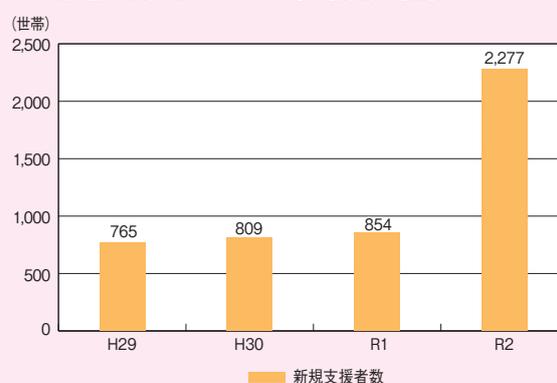


被保護人員及び世帯数の推移



※人員及び世帯数には、保護の停止を含む
資料：福祉行政報告例

生活支援相談センター新規支援者の推移



※令和2年度新規支援者のうち1,423人はコロナ関連の相談
資料：生活困窮者自立支援制度支援状況調査

* 生活支援相談センター

生活保護に至る前の段階にある生活困窮者に対し、専門相談員による「自立相談」「家計相談」等の問題解決に向けた支援を行う機関。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
生活困窮者等が	安定した生活ができるようになり、 将来への希望を持って暮らすことができている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 生活保護相談において、総合事務所に地区担当保健師が配置されており、保健師との連携や情報交換で生活困窮者への対応が行いやすくなっている。
- 長崎市生活支援相談センター*では支援対象者、支援を受けて課題が解決した者ともに増加している。
- 学習支援事業*においては、必要に応じリモートでの支援などを行い、進学希望者全員の高校進学を支援できている。
- 子どもの健全育成支援事業*においては、各種関係機関と連携し対象者が抱える課題に応じた支援を行うことができている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 生活困窮者の相談内容は問題の範囲が広く複合的であり、社会的に孤立しているなど容易に解決することが困難な課題を有するケースが存在する。
- 不登校などにより学習支援事業への参加が望ましいが参加していない対象者がいる。
- 子どもの健全育成支援の対象者は子どもだけでなく保護者も課題を抱える複雑な世帯が多く、解決すべき問題が複合的であり、支援が長期間にわたるものが増えている。また、働きかけても反応がなく支援が困難な世帯がある。

脅威

- 新型コロナウイルス感染拡大により対面での支援が難しくなっている。



III 取組方針

①職員・支援員の能力向上

- 生活困窮者等の相談については、相談担当職員や支援員の能力向上を図るとともに、他機関との連携強化等を行うことで課題の解決を図ります。

②子どもの学習・生活支援の実施

- 学習支援については、ケースワーカーや子どもの健全育成支援員などの参加勧奨のほか、学習支援事業委託事業者による家庭訪問を実施し、よりイメージしやすい形での参加勧奨を行います。
- 子どもの健全育成支援については、働きかけを行っても反応がない対象者に対し、より多様な働きかけを行うため他の機関との連携などにより支援方法の多様化を図ります。

関連するSDGs



* 学習支援事業

- ①生活困窮者である子どもに対し、学習の援助を行う事業。
- ②生活困窮者である子ども及び当該子どもの保護者に対し、当該子どもの生活習慣及び育成環境の改善に関する助言を行う事業。

- ③生活困窮者である子どもの進路選択その他の教育及び就労に関する問題につき、当該子ども及び当該子どもの保護者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言をし、並びに関係機関との連絡調整を行う事業。

* 生活支援相談センター（参照 P177）

* 子どもの健全育成支援事業

- 子どものいる生活保護世帯について
- ①子どもやその親が日常的な生活習慣を身につけるための支援を行う事業。
 - ②子どもの進学に関する支援を行う事業。
 - ③引きこもりや不登校の子どもに関する支援を行う事業。

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
生活保護受給者が	働きがいのある仕事についている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること** ● 就労準備支援を含めた複数の就労支援メニューを用意し、支援対象者それぞれの状況に応じた就労支援を行うことができる。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと** ● 就労準備支援や就労支援を受けても長期にわたり就職できなかつたり、すぐに離職してしまつたりする就職困難事案が多くなつている。

脅威

- 新型コロナウイルス感染拡大により求人が減少したり、離職による要支援者が増加したりすることが予想される。

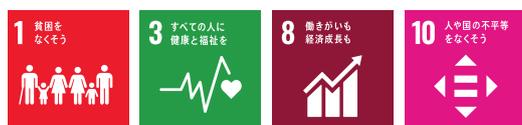


III 取組方針

① 各種支援の実施・充実

- 就労支援員を中心とした各種就労支援事業*間の連携のみならず、家計改善支援事業*や健康管理支援事業*も活用しながら、就職実現に向けて対象者の状況に応じた支援を実施します。
- 民間委託による就労支援事業において、民間のノウハウを活かした就労支援方法や就業訓練、就労準備支援の充実を図ります。

関連するSDGs



ながさき就労支援ルームでの相談



民間委託による就労支援（カウンセリングルーム）



民間委託による就労支援（就業訓練ルーム）

* 就労支援事業

被保護者の就労の支援に関する問題につき、被保護者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行う事業。

* 家計改善支援事業

世帯の自立に向けて家計に関する課題を抱える被保護者世帯に対する家計管理方法の提案や支援を行うとともに、大学への進学を検討している高校生等のいる世帯に対する、進学に向けた費用についての相談や助言、各種奨学金制度の案内等を行う事業。

* 健康管理支援事業

被保護者に対する必要な情報の提供、保健指導、医療の受診の勧奨その他の被保護者の健康の保持及び増進を図るための事業。

F7 自らすすめる健康づくりを推進します

健康づくり課

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	心身ともに健康でいきいきと暮らしている。

めざす姿を達成するための個別施策

- F7-1 市民の自主的な健康づくり活動を支援します
- F7-2 健康づくり環境の充実を図ります
- F7-3 歯科口腔保健を推進します

成果指標

成果指標	基準値	目標値
心身とも健康だと感じる市民の割合	62.1% (R 2年度)	63.6% (R 7年度)
3大疾病による死亡率 (人口10万人当たり) [暦年]	186.9人 (R 2年)	181.9人 (R 7年)
6024の割合	75.0% (H28年度)	83.0% (R 7年度)

関連するSDGs



「健康生活ココデショ!!」とは「長崎くんち」の代表的な出し物である「ココデショ」にかけた、「健康生活をココ（長崎市）でしよう」というメッセージであり、「健康長崎市民21」のシンボルとして使用しているイラストの名前です。

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	地域において、自主的な健康づくり活動に取り組んでいる。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
 - 健康づくり推進員*の育成が図られ、地域での健康づくり活動が推進されている。
 - 市主催のイベントでも、健康づくり推進員が健康づくりの啓発を行うなど、市民の自主的な健康づくりが推進されている。
- 強み**
 - 地域の保健医療、職域、ボランティア等の関係団体との協働による参加型イベントにおいて、市民が健康チェックや健康相談を受けられることで、自身の健康状態を知り、健康づくりへの関心を高める機会となっている。

II うまくいないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
 - 健康づくり推進員の活動の維持のため、高齢化等による入れ替わりに対応でき、リーダーになれるような人材の確保が必要だが、リーダーの活動に負担感があるなどの理由から、十分できていない。
 - 主な啓発の場である各種イベントへの参加が少ないため、働き盛りの世代の市民に対する健康づくりに関する啓発が、十分にできていない。
 - 健康づくり推進員の地域での活動の場が少ない。



III 取組方針

- 健康づくり推進員の人材確保**
 - 健康づくり推進員の活動の場の充実を図り、モチベーションを向上させるとともに、新たな人材を確保します。
 - 健康づくり推進員の高齢化等による入れ替わりに対応できるように、リーダー等の人材を育成します。
- 健康づくり推進員の活動の場の確保**
 - 地域活動との連携により、地域単位で健康づくり推進員活動を推進する働きかけを行います。
- 健康づくりの啓発**
 - 健全な食習慣、運動習慣の定着や定期的な健（検）診の受診など主体的に健康管理を行う必要性を啓発することにより、市民の健康づくり推進を図ります。

関連するSDGs



健康づくり推進員（ロードワークサポーター）



健康づくり推進員（食生活改善推進員）

関連する計画等

- 『健康長崎市民21』計画

* 健康づくり推進員

地域における健康づくりの担い手で、食生活改善推進員、ロードワークサポーター、精神保健福祉ボランティア、あじさいサポーター、高齢者ふれあいサロンサポーター、シルバー元気応援サポーター、介護施設ボランティア、認知症サポートリーダー、琴海地区健康づくり協力隊の9団体のこと。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	健康増進のための正しい知識を習得し、健康管理に努めている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- コロナ禍で健（検）診の受診控えが発生していると考えられる中でも、受診者が大きく減少していないことから、受診しやすい環境づくりや受診勧奨の取組みにより、市民の理解を得られていると考えられる。

チャンス

- 新型コロナウイルス感染症において、基礎疾患のある方のリスクが高いことが十分周知されたため、生活習慣病の予防の重要性が市民の中に広まっていると考えられる。
- 健康増進法の改正により、公の場での喫煙が制限され、受動喫煙防止につながっている。また、職場での喫煙の制限が禁煙を始めるきっかけとなることが期待される。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 健（検）診の受診率が伸び悩んでいることから、自身の健康状態の把握を行うことの大切さについての効果的な啓発ができていない。
- 精神保健に関する健康教育講座への働く世代の参加者が少ない。

脅威

- 生活習慣病の中には、自覚症状が出にくく、気づきにくい疾病がある。
- コロナ禍での自粛生活や生活困窮などにより、健康、経済・生活、家庭問題等に悩みを持つ人が増えている。



III 取組方針

① 正しい知識の普及啓発

- 生活習慣病予防につながる健康教育、健康相談、訪問指導を実施し、健康増進のための正しい知識の普及啓発を強化します。
- こころの健康や自殺予防に関する正しい知識の普及啓発を行います。

② 健（検）診の受診環境の整備

- 健（検）診の受診環境や受診機会の拡充を図るとともに、自身での健康チェックの大切さについての啓発と健（検）診の受診勧奨を強化します。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市食育推進計画
- 長崎市自殺対策計画
- 『健康長崎市民21』計画



がん検診

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	口腔の健康管理に努め、その機能を健全に保っている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 医療や福祉に関わる多職種が参加する研修会の実施により、歯科口腔保健に対する意識の向上と多職種が連携して取り組む環境づくりが進んでいる。
- 歯科衛生士向けの研修会では、障害者や要介護者に対する歯科保健医療において指導的役割を果たせる歯科衛生士を養成できている。
- 小・中学校でのフッ化物洗口*実施校が増加し、幼児期から継続的にフッ化物洗口を実施する環境が整った。
- 特定健診やがん検診とあわせて歯科健診及び歯科保健指導を行うことで、歯科受診のきっかけになり、口腔衛生の向上に寄与している。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 20～30歳代の若年層では、定期的な歯科受診の重要性についての認識が低く、歯周疾患検診受診者が少なく、保健情報も伝わりにくい。
- 高齢者向けに、口腔機能維持と誤嚥性肺炎*予防に関する情報周知が不足している。



III 取組方針

① フッ化物利用の促進

- 4歳から15歳までの継続したフッ化物洗口の実施に加えて、成人に対しても、フッ化物配合歯磨剤の効果的な使用方法について周知します。

② 口腔管理の啓発

- 特に20～30歳代の若年層に対して生涯にわたる定期的な歯科受診の重要性を啓発し、新規の健（検）診受診者の増加を図り、歯ブラシに加えてフロスや歯間ブラシ等補助的清掃用具の効果を周知し、使用を促します。

③ 口腔機能維持による健康寿命の延伸

- 多職種間の連携を推進し、地域での健（検）診や様々な場において、口腔機能低下を予防する方法を周知することで、健康寿命の延伸を図ります。

関連するSDGs

3

すべての人に健康と福祉を



関連する計画等

- 長崎市歯科口腔保健推進計画
- 『健康長崎市民21』計画
- 長崎市子ども・子育て支援事業計画
- 長崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画



歯っぴいスマイルフェスティバル



歯周疾患検診ポスター

* フッ化物洗口

一定濃度のフッ化ナトリウム溶液（5～10ml）を用いた30秒～1分間のブクブクうがいにより行うむし歯予防方法。

* 誤嚥性肺炎

飲み込む機能（嚥下機能）や咳をする力が弱くなり、口腔内の細菌、食べかす、逆流した胃液などが誤って気管に入ることによって生じる肺炎。

F8 安心できる衛生環境を確保します

生活衛生課

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
だれもが	感染症や食中毒等の健康被害から守られている。

めざす姿を達成するための個別施策

F8-1 感染症の発生と感染拡大を防止します

F8-2 飲食物、生活衛生等による健康被害発生を防止します

成果指標

成果指標	基準値	目標値
感染症患者数	5人 (H27～R元年度平均)	4人 (R7年度)
観光関連施設での食中毒患者数	32人 (H27～R元年度平均)	0人 (R7年度)

関連するSDGs



正しい手の洗い方を学ぶ親子手洗い実験



動物愛護フェスタ

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対象	意図
だれもが	感染症の発生やその重症化から守られている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
- 高齢者の予防接種の実施により罹患及び重症化の予防が図られ、まん延防止につながっている。
 - 麻しん風しん予防接種（Ⅰ期）の接種率が目標値に近い接種率であり、子どもの感染症予防が図られている。
- チャンス**
- 新型コロナウイルス感染症対策としてマスクの着用や手洗いの徹底等が新しい生活様式として定着し、他の感染症の感染予防にもつながっている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
- 子どもの麻しん風しん予防接種（Ⅱ期）の接種率が目標値を達成していない。
 - 感染症を予防するために実施する予防接種の種類が増加しており、接種率のさらなる向上を図るため、市民への啓発に努める必要がある。
- 脅威**
- 国際的な交流人口の拡大により新型インフルエンザや同様に危険性のある新感染症の世界的な流行が危惧され、それに対応できる健康危機管理体制の充実が求められている。



III 取組方針

①健康危機管理体制の整備

- 感染症の発生に速やかに対応するため、医療機関等の関係機関と協力して健康危機管理体制を整えます。

②予防接種の実施

- 感染症の予防と拡大防止のため、高齢者等の予防接種を実施するとともに、感染症に対する正しい知識の普及啓発に努めます。
- 子どもの予防接種の制度内容を保護者に理解してもらうため、様々な機会や場所において周知啓発を行い、個別通知や医療機関と連携した接種勧奨を行うとともに、未接種者への勧奨を継続して実施します。

③結核患者の発生の予防と早期発見

- 結核患者の早期発見により感染の拡大防止を図るため、健康診断及び検査を実施します。
また、結核を発症した高齢者が利用した福祉施設職員への感染予防の指導を行います。

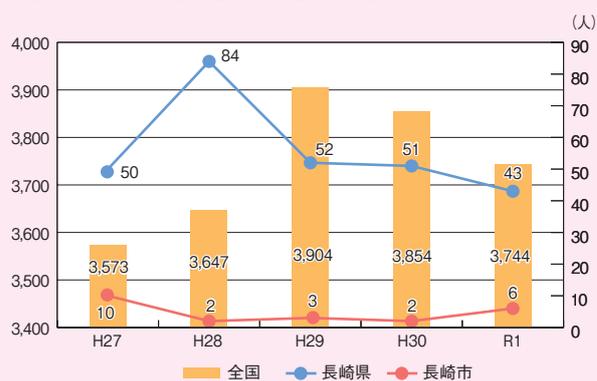
関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市新型インフルエンザ等対策行動計画

腸管出血性大腸菌感染症発生状況



資料：感染症発生動向調査事業年報（厚生労働省統計）

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
だれもが	食中毒等の健康被害から守られている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 食品衛生法第13条に定められた規格基準に違反する食品は近年減少し、安全な食品の提供が進んでいる。
- 公衆浴場等に係る浴槽水の水質検査の適合率が高い数値で推移している。
- 狂犬病予防注射の接種率は全国平均を上回る数値で推移している。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 公衆浴場等の形態の多様化に伴い衛生指導の強化が求められている。
- ペット（犬猫）の不適正な飼育に関する苦情が多く寄せられている。
- 飼い犬の登録及び狂犬病予防注射は法定義務であるが、小型犬等の室内飼いの増加等により、狂犬病に対する関心や感染に対する危機意識が低下していることから、未登録及び狂犬病予防注射を受けていない飼い犬がいる。

脅威

- アニサキス*を原因とした食中毒事件が近年増加傾向にある。



III 取組方針

① 食中毒予防の取組み

- 集団食中毒の防止や安全な食品の提供のため、食品関連事業所でのHACCP*に沿った衛生管理体制の確立と食品の製造・販売に係る事業者（従業員を含む）の衛生意識の向上を図ります。

② 施設への衛生指導の強化

- 公衆浴場等の施設の衛生管理向上のため、衛生指導の強化を図ります。

③ 適正飼養の啓発の強化

- ペットの適正な飼育方法について市民への啓発を強化します。

関連するSDGs



関連する計画等

- 食品衛生監視指導計画



公衆浴場



食品の残留農薬検査

* アニサキス

寄生虫（線虫）の一種。白い糸のような見た目をしており、これが寄生したサバやアジ、サンマなどを食べると、アニサキスが胃や腸の壁に刺さり食中毒を起こす。

* HACCP

食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因（ハザード）を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法。

F9 安心できる医療環境の充実を図ります

地域保健課

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	安心して適切な医療を受けられている。

めざす姿を達成するための個別施策

F9-1 救急医療体制の充実を図ります

F9-2 地域医療提供体制の充実を図ります

成果指標

成果指標	基準値	目標値
夜間・休日における市内の医療体制が整っていると思う市民の割合	75.8% (R 2年度)	80.3% (R 7年度)
かかりつけ医をもつ市民の割合	79.5% (R 2年度)	81.8% (R 7年度)

関連するSDGs



2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
救急医療体制が	適切に整備されている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること**
- 夜間、休日における救急医療体制が構築されている。
 - 毎年約20,000人の市民が応急手当の講習を受講している。
 - 119番通報を受け付ける指令室に救急救命士など応急手当をサポートできる職員を配置し、市民が行う応急手当をサポートする体制が充実している。
- 強み**
- 急性期医療*を担う医療機関が他都市と比較して多い。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

- うまくいっていないこと**
- 精神科や整形外科などの一部の診療科において、救急搬送困難事例が発生している。
 - 軽症患者が二次輪番制病院*に多数来院し、診療に支障をきたす事例が発生している。
 - 心肺機能停止となった人に対して、救急車が到着するまでの間に、応急手当が行われていないことがある。
- 脅威**
- 二次輪番制病院において、当直医師の高齢化や非常勤化が進んでいる。



III 取組方針

① 持続可能な救急医療提供体制の構築

- 夜間救急センターの運営や病院群輪番制病院への支援を継続するとともに、長崎大学病院や二次救急医療*を担う医療機関などと連携を図りながら、持続可能な救急医療提供体制を構築します。

② 救急医療提供体制の確保・充実

- 適切な救急医療提供体制を確保するため、長崎みなとメディカルセンターの救命救急センターの安定した運営に向けた連携を進めるとともに、運営費負担金などの必要な支援を行います。
- 応急手当の普及啓発体制及び119番通報の受付時に市民が応急手当をできるようにサポートする体制の充実に努めます。
- 救急隊員の救急救命処置や応急手当の質の向上を図るため、医師からの指導、教育体制の充実に努めます。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎県医療計画

* 急性期医療

発症初期や急に発症した病気や外傷などの治療のために行う医療。

* 二次輪番制病院

輪番制方式により当番日に休日夜間の診療体制を整え、主に初期（一次）救急医療施設からの転送患者を受け入れる病院。

* 二次救急医療

原則として、消防による救急搬送などにより、入院治療・手術等が必要とされる重症の救急患者に対して行う医療。

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
医療提供体制が	適切に整備されている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること ● 医療機関など関係機関との情報共有と検討の場がある。

強み

● 訪問診療や介護事業所などの医療・介護の地域資源が他都市と比較して豊富で、関係団体の取組みも活発で先進的である。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

● 地域医療構想*実現に向けた具体的な取組みについて、各医療機関の役割分担や連携にかかる協議を深める必要があるが、医療機関ごとに経営方針や財政状況などが異なるため、協議が十分深まっていない。
● 地域医療構想の実現に向け、新たな感染症にも対応できるよう、医療連携体制を構築する必要がある。
● 医療・介護の多職種間での相互理解や情報共有が十分できていない面がある。

弱み

● 医療機関が偏在しており、医療資源が限られている地区がある。

脅威

● 長崎県医療計画においては、後期高齢者人口がピークとなる2035年に向かって在宅医療の大幅な需要が見込まれる。



III 取組方針

① 持続可能な医療提供体制の構築

● 医療機関の機能分化、役割分担及び連携を進め、一般診療と新たな感染症の診療が両立した持続可能な医療提供体制を構築します。

② 公的医療機関の連携強化

● 長崎みなとメディカルセンターが中核的医療機関及び公的病院としての役割を積極的に果たせるよう、現行の会議体に加え、公的医療機関同士など様々なまとまりでの会議体を活用し、連携した取組みを行います。

③ 多職種連携による在宅医療と介護の連携推進

● 日常の療養支援、入退院支援、急変時の対応、看取り等の様々な場面において、医師をはじめとした多職種と連携しながら、切れ目のない在宅医療と介護の連携体制を構築していきます。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎県医療計画
- 長崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

* 地域医療構想

団塊の世代が全て75歳以上となる2025年においても、持続可能な社会保障体制を維持するため、効率的で質の高い医療提供体制を構築することを目的として、都道府県に策定が義務付けられているもの。長崎県においては平成28年11月に策定された。

将来の医療需要や必要となる病床数の推計とともに医療機関の機能分化・連携、在宅医療等の充実、人材確保など、構想実現のための施策等が示されている。

